

○高野山研修旅行の様子と生徒の感想



3日間、宿坊に宿泊しました。

(左) 蓮華定院の縁側で休む生徒

(右) 金剛三昧院の山門

☆参加した生徒の感想

1年 E.Kさん

〈1日目〉

初日の大半は移動でした。まず、新幹線で新横浜から新大阪まで行き、次にバスで標高 1000m 近くの高野町まで登りました。私たちが泊まったのは「金剛三昧院」という宿坊です。隣には国宝の「多宝塔」があり、それは木製の二重の塔のようでした。

夕飯は、私の人生初の精進料理を頂きました。精進料理は、肉や魚などの「命あるもの」を控えた野菜メインの料理です。宿坊で頂くご飯はとてもおいしく、毎日2杯はおかわりをしました。

その後、友人たちと入浴を済ませて、就寝の時間となりました。高野町は、高野山の頂きにあるので早朝にかけてグンと気温が下がります。しかし、所々虫の鳴く声が聞こえていて、とても気持ちよく寝ることができました。

1年 Y.Tさん

〈2日目〉

2日目は、朝から盛りだくさんの内容でした。

まず、5時30分に起床、バスで「高野山奥の院」に移動しました。ガイドさんの案内を聞きながらの「奥の院」散策です。「奥の院」には横浜清風高校の供養塔もあるので、クラス全員で合掌、一礼をしました。「勤行の栞」にも写真と説明があるので、仏教の時間に勉強した供養塔。実際に見ることができて、改めて我が校の歴史の深さを感じました。

また、事前学習の際に仏教科の山本先生が配信された資料に掲載されていた織田信長や徳川家一門、武田信玄、上杉謙信など名だたる大名たちの供養塔や、有名企業各社の供養塔も見学することができました。

僕が個人的に「面白いな」と思ったのは、武田信玄と上杉謙信の供養塔です。供養塔の位置を、川中島の戦い当時の配置に設置してあるそうで、いつでも真っ向対決できるように工夫されています。でも、生前敵対していた二人も、死後の世界では和解しているかも知れないという説もあるようです。

さらに奥へと進み、橋を渡って御廟前にて般若心経をお唱えしました。

宿坊に帰って朝食を頂き、午前中は大師教会で写経をし、奉納しました。大師教会はとても広くて圧倒されましたが、事前に学校で教えられたことを意識して、一文字一文字丁寧にこなすことができました。

午後は、自分の班の友人たちと協力しながら自主見学を行いました。自主見学先で特に印象に残っているのは刈萱堂です。お堂の中には、刈萱道心と石童丸の一生が30枚の絵で表現されていて、とても興味深かったです。



2日目早朝、
奥之院を参拝しました。



霊宝館に行きました。



根本大塔を見学しました。→

←大師教会にて、
写経に取り組みました。



1年 K.Yさん

〈3日目〉

今までお世話になった方々への感謝と、良い経験ができたという思いを、しみじみと味わった日々となりました。高野山という、生まれて初めて訪れた場所での生活は、空海によって広められたこの地で実際に経験したことをこれからの生活に生かし、身近な人と共有するきっかけとなりました。

特に昨年、先輩方はコロナ禍の影響で研修旅行へ行けませんでした。だからこそ、僕たちが味わったことを伝えることで思いを共有したいと思います。とても充実した3日間でした。

1年 K.Kさん

初めての研修旅行で、仏教の世界観を今まで以上に本格的に体感することになった。「研修」は、つまり「修行」なので多少規制はきついが、その雰囲気も楽しむことにした。

1日目の大半が移動だったが、夕食では精進料理を頂いた。私にとって初めての高野豆腐。じっくりと味わいたいところだが、元から豆腐が苦手なので、これも「修行」の一環だと自分に言い聞かせて、完食！！！！
……味は豆腐だった。

2日目、研修旅行のメイン・イベントとなる「写経」や「自主行動」などが詰まった「ハードな1日」。

不幸なことに、私は慣れない枕で寝ることが非常に苦手なので、前夜はあまり眠れなかった。「写経」の時はかなり集中していたのでウトウトする間もなかったが、書き終わった時は、とても疲れた。

そんな中、眠気が吹っ飛び、力が湧いてくる出来事が！！！！

なんと、昼ごはんに「肉」が出たのだ。仏教的にあまり良くないことなのかもしれないが、とても美味かった。その時、「食の美しさ」というか、一つの生命のかけらを食す時の「感触」を体で感じた。だからなのか、その後の見学の自主行動では、かなり歩いたが体調は良好だった。

3日目。勤行といえば般若心経を唱え、話を聞くものだと思っていたが、それはあくまで短縮版であることを知った。お坊さんが般若心経以外のお経を唱えたり作法をしたりしていたので、正直何をしているのかわからなかったが、とてもリズムカルで心に残った。一段落ついたところでお焼香を体験した。

3日間を通して学んだ一番大きなことは、本来の目的とは少しずれているような気もするが、食に対する感謝の大切さだったと思う。

1年 T.M さん

高野山研修旅行に行ってきました。1 日目は移動時間が長くて少し退屈だったけれど、窓から見える景色が新鮮でした。山の上の方に行くとシカがいました。窓ごしではありましたが、近くで見たのは初めてだったので嬉しかったです。また、バスから見えた大門は色鮮やかで大きくて迫力がありました。

夕飯では精進料理を初めて頂きました。おかずの量や種類が多く、5 大栄養素に基づいた 5 色の食材がふんだんに使われていて、バランスが良いなと思いました。「食前食後の言葉」は、普段家では「いただきます」「ごちそうさま」の二語だけなので慣れていませんが、感謝の気持ちを込めて言えました。休み時間には、宿坊の周りを散歩してみました。

2 日目早朝、一の橋から奥の院を散策し、神聖な空気を感じました。とても太くて高い樹木や、昔からある石塔を見て歴史を感じました。一つ一つの石塔に込めた人々の願いや思いが表れていると思いました。また有名な武将のお墓がたくさんあり、大きさも様々でした。お地藏様には手作りの帽子や洋服、前掛けが付けられていて素敵だなと思いました。さらに、お大師様に食事を運ぶ僧侶の方々を拝見することができました。「生身具」と言われるこの習慣が、1200 年もの間途切れることなく続けられているということは、本当に素晴らしいことだと思います。

奥の院からの帰りには、水面に自分の顔が写らなければ 3 年以内に死ぬとされている「姿見の井戸」をのぞき、自分の顔が見えたので安心しました。

朝食の後は大師教会で写経に取り組みました。心を落ち着かせ、集中して 1 文字 1 文字書けました。正座は少し辛かったけど続けることができ、程よい緊張感で最後まで臨めました。

午後は、まず金剛峯寺を訪れましたが、襖に描かれた瀧の絵がすごく立体的で綺麗でした。

次に見学した霊宝館には、貴重な像・絵画・彫刻などが収蔵されていて、曼荼羅はとても大きくて輝いていました。特に餓鬼を踏みつけている四天王像は、大変恐ろしくて衝撃的だったので深く印象に残っています。

172 年ぶりに再建された壇上伽藍の中門。驚いたのは広目天と増長天の仁王像の胸のあたりに、セミやトンボがとまっていたことです。調べてみると、広目天は西の方角を守護する仏様で「蟬の鳴き声は遠くまで響き渡り、悪を退ける」という意味合いがあるということ。一方、増長天は南の方角を守護する仏様であり、トンボが象徴するのは「断じて悪を通さない、後へは引かない」ということが分かりました。

自主見学では 3 箇所寺院をまわりました。南院では天井いっぱいにかかっている龍の絵の立体感や目力、白にオレンジという色使いに迫力を感じました。

刈萱堂では、みかんやダイコン、人参などがそのまま置いてあることに驚きました。また、刈萱堂は刈萱道心と石童丸の物語で有名ですが、奉納されている絵からは昔の人たちの生活が分かり、面白いなと思いました。少し怖いシーンもありますが、人々の暮らしの大変さや苦労さが伝わってきました。

赤松院は深みのある赤のお堂で綺麗だなと思いました。枯山水では、石の配置などで波を表現していて、すごいなと思いました。真ん中の大きな石の上には旅人の仏像がありました。足つぼのようなものもあって面白いなと思いました。

3 日目の朝は本堂での勤行に参加しました。学校の勤行時の読経とは雰囲気も異なり、また僧侶の方との距離も近く新鮮でした。4 人の僧侶の方が目前でお唱えになる般若心経は、やはり歴史の重みを感じました。また、勤行後の説法を拝聴し、高校生活は 3 年間しかないのも今の環境で仲間と共に頑張っていこう、と前向きな気持ちになりました。

最後に、私が宿泊した金剛三昧院は 5 文字ですが、このような長い名前の宿坊は高野山でも 2 箇所しかない、とおっしゃっていたことを覚えておこうと思います。世界遺産の多宝塔がある宿坊に滞在できるという、大変貴重な体験ができました。2 泊 3 日全てのことが大切で、幸せでした。また、仲間と協力して過ごすことができ、絆が深まった気がします。帰途では京都タワーを見る事もできました。それも良い思い出となりました。